

平成25年度（平成24年度対象）
教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価に関する報告書

平成25年12月

茨城県教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 27 条第 1 項の規定により、平成 24 年度における教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について報告します。

平成 25 年 12 月 2 日

茨城県教育委員会委員長 柳生 修

目 次

I	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の概要	1
II	いばらき教育プランの基本テーマと施策の基本方向	3
III	点検及び評価の結果	4
	第1章 社会全体での教育力の向上	4
	第2章 未来に羽ばたく力を育てる教育の充実	8
	第3章 豊かな心と健やかな体の育成	16
	第4章 生涯にわたって学べる環境づくり	24
	第5章 質の高い教育環境整備	29
IV	学識経験者の意見	32

I 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の概要

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条第1項の規定に基づき、教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表する。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

本県の教育行政の基本方針である「いばらき教育プラン（2011～2015）」に掲げられた、県教育委員会が所管する施策で、平成24年度に実施したものを対象とする。

3 点検・評価の方法

(1) いばらき教育プランの施策体系に基づき、それぞれの取組状況等について、点検・評価を実施した。

〔施策体系〕

- 第1章 社会全体での教育力の向上
- 第2章 未来に羽ばたく力を育てる教育の充実
- 第3章 豊かな心と健やかな体の育成
- 第4章 生涯にわたって学べる環境づくり
- 第5章 質の高い教育環境整備

(2) 各施策の主要項目について、平成24年度の実施内容、課題・今後の対応、数値目標の進捗状況を整理した。

また、平成24年度政策評価実施方針等を参考に、各施策における主な事業について評価を実施した。

事業の評価は、評価対象年度に期待される事業の成果（期待される数値）に対する達成度により、4段階に分類した。

【評価結果】
4 期待通りの成果（100%以上）
3 概ね期待通りの成果（80～99%）
2 期待した成果を下回っている（50～79%）
1 期待した成果があがっていない（50%未満）

(3) 評価の客観性・妥当性を確保するために、教育に関する学識経験者5名より意見を聴取した。

学識経験者（五十音順、敬称略）

氏名	所属等	分野等
磯田 洋	水戸市立常磐小学校長	小中学校校長
大山 吐志	特定非営利活動法人こどもの育ちサポートステーション代表理事	生涯学習分野
加藤 欣一	茨城県PTA連絡協議会長	保護者
清水 美憲	筑波大学人間系（教育学域）教授	学校教育分野（学力）
吉野 聡	茨城大学教育学部准教授	学校教育分野（体力）

(4) 学識経験者からの意見聴取を通し、今年度の報告書内容については、概ね妥当とのものであった。

なお、学識経験者からの主な意見については、32ページ以降に記載のとおりである。

II いばらき教育プランの基本テーマと施策の基本方向

基本テーマ	一人一人が輝く 教育立県を目指して
基本方向1	<p>社会全体での教育力の向上 未来を担う子どもたちに、社会の一員として自立できるための力を育てることや、生きる力をはぐくむため…</p> <p>→ 家庭・学校・地域や企業等の連携・協力の推進 いばらき教育の日・教育月間の推進 学校・家庭・地域等の教育力の向上 等</p>
基本方向2	<p>未来に羽ばたく力を育てる教育の充実 新学習指導要領等の内容を踏まえ、将来の夢や目標に向かって努力する力を育てるため…</p> <p>→ 確かな学力を身に付けさせる指導の充実 国際化や時代の変化に対応した教育の推進 等</p> <p>→ 自立と社会参加を目指す特別支援教育の充実</p>
基本方向3	<p>豊かな心と健やかな体の育成 豊かな心を育み、健やかな体を育成するため…</p> <p>→ 道徳教育や体験活動の充実 学校体育やスポーツの機会の充実</p> <p>自己の生き方を深く考える力を育てるため…</p> <p>→ キャリア教育等の勤労観・職業観を育てる教育の充実 郷土の伝統や文化に対する愛着を高める教育の推進</p>
基本方向4	<p>生涯にわたって学べる環境づくり いつでもどこでも学べる機会を充実させるとともに、学んだことを社会づくりに活かせる生涯学習社会実現のため…</p> <p>→ 生涯にわたって質の高い学びを進める環境づくり 心に潤いと感動をもたらす文化・芸術活動の推進 活力あるスポーツの振興</p>
基本方向5	<p>質の高い教育環境整備 安全・安心な教育環境の実現と教育の機会を保障するため…</p> <p>→ 時代の進展や社会の変化に対応した魅力ある学校づくりの推進 学習施設の整備の促進</p>

Ⅲ 点検及び評価の結果

第1章 社会全体での教育力の向上

(1) 目指す方向

未来を担う子どもたちに、社会の一員として自立できるための力を育てることや、生きる力を育むためにも、学校、家庭、地域や企業等が連携・協力していくことが重要であり、いばらき教育の日、教育月間の推進、学校・家庭・地域等の教育力の向上を図りながら、社会全体での教育力の向上を目指す。

(2) 取組・課題・今後の対応等

①いばらき教育の日、教育月間の推進

- ・県民全体の運動の活性化

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度の取組内容】

- 「いばらき教育の日・教育月間」における県民の主体的な取組を促進し、市町村や民間の活動に対する支援等を行った。県民の教育に対する関心と理解を深めることができた。
 - ・県や市町村、学校等における取組 7,157 件 参加者数 延べ約3,000,000 人
- 教育に関する取組を実施する事業所等を登録し、県の広報媒体で広く県民に紹介することで、企業等における教育への関心を高める取組を推進した。
 - ・県や市町村、学校等における取組 7,157 件 ・民間企業、団体における取組 839 件

【課題・今後の対応】

- ◇ 「いばらき教育の日・教育月間」における取組への参加主体の偏り（教育関係者が多い）
 - 県庁内各課との連携及び民間企業、団体等に対する、「いばらき教育の日・教育月間」普及啓発の協力要請や、「いばらき教育の日」推進協力事業所等登録制度[※]についての広報を推進
 - ※「いばらき教育の日」推進協力事業所等登録制度 … 県内の企業や事業所などを対象に、「いばらき教育の日」の普及啓発への協力とともに、自らの持つ教育力を学校教育活動や社会教育活動に貢献する企業や事業所などを登録する制度（平成25年3月31日現在 130 企業等 1,424 事業所等）
- ◇ 「いばらき教育の日」推進協力事業所等登録制度活用の促進
 - 「いばらき教育の日」推進協力事業所等登録制度の充実と、学校・家庭・企業等地域社会が連携した活動の促進

【数値目標の進捗状況】

内容	基準値	目標値 平成27年度	平成24年度 実績	単位
「いばらき教育月間」における民間団体・企業の取組件数	(H21) 75	500	839	件
「いばらき教育月間」における事業参加者数	(H21) 2,584	3,000	2,999	千人

②開かれた学校づくりの推進

- ・地域の人材の積極的な活用
- ・地域に向けた情報の発信

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度取組内容】

- モデル地域において、地域と学校が連携することにより地域の課題に応じた防災教育を実施し、学校の防災力の強化を図った。
 - ・地域との連携による学校の防災力強化推進事業モデル地域 大洗町・日立市・神栖市・取手市・稲敷市
- 県立図書館と市町村立図書館等が連携し、学校図書館ボランティアの協力を得て、子どもたちが集う魅力ある学校図書館づくりを支援した。また、司書教諭等をサポートし、子どもたちが学校や家庭で読書に親しむ機会及び学校図書館活動の充実を図った。
- 保護者や地域住民の学校運営への参加・参画による、よりよい教育の実現のため、学校関係者評価を実施し、その結果を踏まえて学校改善に取り組んだ。

【課題・今後の対応】

- ◇ 学校支援コーディネーターの人材育成・学校支援ボランティアの資質向上、学校支援のニーズの把握と教職員の理解
 - コーディネーターや教職員向けに学校支援活動研修会の実施
- ◇ 全公立学校における、学校関係者評価結果を踏まえた学校運営の改善実施
 - 高等学校について、学校指導方針説明会及び学校訪問等で、学校評価の活用や公表の在り方などについて学校へ周知し、情報発信の充実を図るとともに開かれた学校づくりを推進
 - 小・中学校では、全ての学校において学校関係者評価の結果が公表されるように公表の効果に関する情報提供を積極的に実施

【数値目標の進捗状況】

内容	基準値	目標値 平成27年度	平成24年度 実績	単位
学校支援ボランティア活動への参加率	(H22) 4.1	15.0	10.3	%
学校関係者評価を実施し、その結果を踏まえて学校運営の改善に取り組んだ割合(小学校)	(H20) 71.3	100	(H23) 100	%
学校関係者評価を実施し、その結果を踏まえて学校運営の改善に取り組んだ割合(中学校)	(H20) 72.5	100	(H23) 100	%
学校関係者評価を実施し、その結果を踏まえて学校運営の改善に取り組んだ割合(高等学校)	(H20) 71.2	100	(H23) 79.2	%
学校関係者評価を実施し、その結果を踏まえて学校運営の改善に取り組んだ割合(特別支援学校)	(H20) 81.8	100	(H23) 100	%
学校関係者評価を実施し、その結果を公表した割合(小学校)	(H20) 64.1	100	(H23) 98.7	%
学校関係者評価を実施し、その結果を公表した割合(中学校)	(H20) 56.7	100	(H23) 96.1	%

③家庭の教育力の向上

・家庭教育の充実

○：取組

◇：課題

→：今後の対応

【平成24年度の取組内容】

- 家庭教育支援資料3部作の作成・配付・活用により、家庭教育の重要性の啓発と家庭教育に対する保護者の意識啓発を図った。

<家庭教育支援資料>

家庭教育ブックひよこ 幼児期の子の保護者向け

家庭教育ブック 就学前から小4の子の保護者向け

家庭教育ブックつばさ 小4～小6の子の保護者向け

- 「教育・子育て電話相談事業」を紹介するホームページ内に、実際に寄せられた相談及び回答事例を相談内容ごとに分類して掲載する「電話相談事例集」のページを作成し、保護者の子育てに関する悩みや不安に対応した。
- 家庭教育推進員養成研修会を行い、家庭教育支援人材を養成した。
研修会修了者 48人 累計223人 (H21～)
- 小学校1年生全員に「おてつだいちょう」を配付し、家庭でのお手伝いを奨励することにより、子どもたちの自立心や責任感、道徳心や正義感を育成した。
- 生活習慣や規範をテーマに、県民から「すくすく育ていばらきっ子かるた」の読み札の標語を募集し、家庭の役割や生活のあり方を見直す機運を高めた。また、「すくすく育ていばらきっ子かるた」を活用することで、遊びをとおして、子どもたち自身の基本的な生活習慣や規範意識の醸成を図った。

【課題・今後の対応】

- ◇ 家庭教育に対する保護者の意識啓発
 - 家庭の教育力向上推進委員会で、全県的な家庭教育推進方策を検討
 - 家庭教育支援資料を活用した保護者向け研修会の実施促進（幼稚園や保育所等の総会・研修会で、家庭教育支援資料の活用等を働きかける）
- ◇ 「家庭教育ブックひよこ」の積極的な活用
 - 活用推進方策の検討と実施
- ◇ 「おてつだいちょう」のより積極的な活用
 - 学校(担任)と保護者への継続的な啓発及び子どもたちが楽しみながら取り組めるレイアウトの工夫
- ◇ 「すくすく育ていばらきっ子かるた」の積極的な活用
 - かるたの増刷・配布と保育所、幼稚園、小学校、青少年施設等における活用促進

【数値目標の進捗状況】

内容	基準値	目標値 平成27年度	平成24年度 実績	単位
家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」を活用した研修会の実施箇所数とその割合	(H22)	全幼稚園・保育所		
	104	856*	276	園
	12	100	32.0	%
家庭でほとんど毎日(週4日以上)お手伝いをしている小学校1年生の割合	(H21)	60.0	53.0	%
	43.0			

※基準値策定時の全幼稚園・保育所数（平成24年度は858となる。）

(3) 主な事業の評価

事業名 担当課 事業費(千円) (歳出, 一財)	目的, 内容	数値目標 (目標年度)	課題, 今後の方向性	
		期待値 (H24)	評価結果	1~4 【 】
		成果 (H24)		
「いばらき教育の日」推進事業	学校・家庭・地域社会が連携し、社会全体で教育に取り組む環境を創るため「いばらき教育の日・教育月間」における県民の主体的な取組などを促進するとともに、その取組を県ホームページなどにより広く県民に紹介する。	「いばらき教育月間」における事業参加者数 3,000 千人 (H27) 2,792 千人 2,999 千人	民間企業・団体等へ「いばらき教育月間」普及啓発の協力要請やサポートカンパニー登録制度の広報をより一層推進することをはじめとして、学校・家庭・企業等地域社会が連携した活動の一層の推進を図る。	評価結果 4 方針 【現行どおり】
生涯学習課 2,362 2,362				
お手伝い・ボランティア奨励事業	小学校1年生全員に「おてつだいちょう」を配付し、家庭でのお手伝いを奨励する。自立心や責任感、道徳心や正義感を育成する。	家庭でほとんど毎日(週に4日以上)お手伝いをしている割合 60% (H27) 51.5% 53.0%	学校(担任)と保護者への継続的な啓発を図るとともに、児童が、より楽しく取り組める「おてつだいちょう」になるようにレイアウトなどを工夫する。	評価結果 4 方針 【現行どおり】
生涯学習課 989 989				
いきいき子育て地域連携実践講座開設	企業等で子育て中の保護者を対象として、家庭教育講演会やその子どもの職場訪問を実施する。	10 事業所(毎年度) 10 事業所 10 事業所	事業を共催する経済5団体との連携を深め、実施事業所の拡充を図っていく。	評価結果 4 方針 【現行どおり】
生涯学習課 415 415				
家庭の教育力向上プロジェクト事業	家庭教育支援資料等を活用した研修会の実施等により、家庭教育の重要性の啓発や親の意識改革を図る。	「家庭教育ブックひよこ」を活用した研修会実施率 (H27 100%) 50% 32%	家庭教育の重要性の啓発や、家庭教育に対する保護者の意識改革を図る。幼稚園団体、保育園団体の総会等で、家庭教育支援資料等を活用した保護者向け研修会の実施を依頼する。	評価結果 2 方針 【現行どおり】
生涯学習課 4,709 4,709				
地域に生きるヤングボランティア推進事業	高校生を対象にボランティア活動についての学習機会を提供、教師や市町村担当者等の指導者研修会を実施する。	受講生数 350 人 (各年) 受講生数 350 人 受講生数 228 人	ニーズに合致した講習会等、魅力的な研修内容にするとともに、近隣高等学校の行事等と重複しないよう日程調整を行う。西山研修所の常陸太田市移管に伴い、受講生を各施設 100 人として、合計 300 人とする。	評価結果 2 方針 【見直し】
生涯学習課 100 100				

第2章 未来に羽ばたく力を育てる教育の充実

(1) 目指す方向

新学習指導要領等の内容を踏まえ、将来の夢や目標に向かって努力する力を育てるため、確かな学力を身に付けさせる指導を充実し、国際化や時代の変化に対応した教育の推進とともに、教員の指導力の向上と指導のための環境整備、拡充を図る。

また、自立と社会参加を目指す特別支援教育の充実を図る。

(2) 取組・課題・今後の対応等

① 確かな学力を育む教育の充実

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と活用する力の育成
- ・ 自ら課題を見つけ解決しようとする学習意欲の向上
- ・ 言語活動の充実
- ・ 理数教育の充実

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度取組内容】

- 少人数学級とティーム・ティーチングによる本県独自の少人数教育により、個に応じた学習指導を実施した。
- 学校が抱える課題への対応や、教育活動の活性化を図るため、市町村への支援を行った。
- 指導主事による学校訪問や研修会等をとおして教員の指導力の向上を図った。また、学力調査等の結果を分析・活用し、学校改善プランの推進をとおして、各学校の学習指導の改善を行い、児童生徒の学力向上、言語活動の充実等を図った。
- 小学校4・5年生を対象として、夏季休業中に県作成の学習教材を用いて学習する場を提供し、基礎的な四則計算等の知識・技能の定着を図った。
- 科学自由研究の指導や理科教室の開催など、児童生徒の科学への興味・関心を高める機会の充実とともに、茨城大学と連携した授業研究会等を通して、教員の指導力向上による理科教育の質の向上を図った。

【課題・今後の対応】

- ◇ 教員の指導力の向上
→ 実践協力校を活用し、地域全体の授業力の向上を目指す市町村別学力向上研修会の実施
- ◇ 学習意欲の向上
→ 少人数授業、学習内容がステップアップしていく指導法等の工夫・改善
→ 基礎学力の定着と達成感や成就感の獲得を図るきめ細やかな指導の充実
- ◇ 高等学校において基礎的・基本的な知識の習得や学習意欲に課題
→ 基礎学力の確実な定着を図るための個に応じた指導法等の工夫・改善
- ◇ 目的に応じた読書や、読書の質と量の両面にわたる指導の充実
→ 指導主事等研究協議会や教育課程研究協議会等で、読書活動の推進を周知
- ◇ 自然的な体験・科学的な体験の充実や理科授業の質の向上
→ 科学自由研究の指導や体験教室等の実施、小学校理科教科担任制の推進
- ◇ 医学部進学者の増加と理数系高校生の総合的な学力向上
→ 医師による講話や小論文指導、研究者や大学院生による実験指導の実施

【数値目標の進捗状況】

内容	基準値	目標値 平成27年度	平成24年度 実績	単位
漢字の読み・書き平均正答率 (小6)	(H21) 83.8	85.0	86.0	%
漢字の読み・書き平均正答率 (中3)	(H21) 68.7	80.0	82.7	%
四則計算の平均正答率(小6)	(H21) 78.5	85.0	89.4	%
四則計算の平均正答率(中3)	(H21) 78.7	80.0	87.2	%
算数の授業で学習したことが将来 社会に出たときに役に立つと思う 割合(小6)	(H21) 91.4	95.0	92.2	%
数学の授業で学習したことが将来 社会に出たときに役に立つと思う 割合(中3)	(H21) 71.6	75.0	72.7	%
年間50冊以上の本を読んだ児童 の割合(小4～小6)	(H21) 58.2	60.0	65.0	%
理系大学進学率	(H21) 33.0	35.0	33.8	%
本県の高校生の科学オリンピック へのエントリー数	(H21) 310	400	457	人

②国際化に対応できる教育の推進

- ・外国語によるコミュニケーション能力の向上

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度の取組内容】

- 発達段階に応じた英語（外国語）教育を実施した。
 - 小学校：歌と遊びで英語のシャワー（本県独自の英語の歌のCD、全公立小学校に配付、昼休み、放課後等に放送）
 - 中学校：発音力アッププロジェクト（「発音力」ソフトを132校に追加し、全市町村立中学校への導入を完了）
 - 高等学校：ディベート・チャレンジ校の公開授業、「英語による授業」の先行実施、コアチャレンジ校の設置 等

【課題・今後の対応】

- ◇ 英語によるコミュニケーション能力（の基礎）の育成
 - 発音力ソフトの効果的な活用と英語教員の指導力の向上
 - ディベート活動等の言語活動を導入した授業の促進
- ◇ 国際的な視野及び国際社会に貢献しようとする態度の育成
 - 高校生の国連大学グローバルセミナーへの参加

③新しい時代に対応した教育の推進

- ・ものづくりを担う人づくり

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度の取組内容】

- 専門高校を中心に、企業実習等の実施校の拡大を図るとともに、職業科目における実験・実習を重視した指導計画を作成した。また、地域産業界で活躍した元企業技術者等の招聘による実践的指導を推進した。
- 職業に関する知識、技能あるいは職業人としての準備教育として、学校と企業が連携した教育（デュアルシステム）を導入し、生徒の資質・能力の伸長と地域社会に有為な人材の育成を図った。
 - ・実施校8校、実施者数216人、受入れ企業数80社

【課題・今後の対応】

- ◇ 専門高校等での取り組みの促進
 - デュアルシステム連絡協議会の開催

④教師力の向上と指導環境の整備、拡充

- ・教員の資質向上
- ・教員が子ども一人一人に向き合う時間の拡充

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度の取組内容】

- 様々な教育課題に的確かつ柔軟に対応できる資質・能力を確実に育成するために、法定研修である初任者研修に加え、本県独自の取組として採用前研修及び2年次研修を実施した。また、学校が抱える教育課題や教職員のニーズを踏まえるなど、より効果的な研修内容とするため、校長や指導教員を招聘した若手教員研修運営協議会を実施し、研修の内容等を工夫改善した。

<教員研修> ※アンダーラインは法定研修

採用前研修、若手教員研修（初任者研修、2年次及び3年次研修）、5年次研修、10年経験者研修

- 校内の業務の効率化について、学校が主体的に改善を進めることで、教員が児童生徒と向き合う時間の拡充を図った。
 - ・学校におけるマネジメント力を強化するための管理職研修の実施
 - ・業務改善モデル校における、学校の業務改善に係る具体的方法等の調査研究を実施
 - ・校務処理の電子化及び定時退勤（学校）の継続
 - ・改善が必要な業務について、継続して取組を実施

【課題・今後の対応】

- ◇ 平成25年度より実施する3年次研修の運営方法及び研修内容の検証
 - 教員としての資質・能力の更なる向上を図るための運営方法及び研修内容の充実
- ◇ 学校におけるマネジメント力強化による業務の効率化の推進
 - マネジメント研修の充実（管理職及び教務主任等ミドルリーダーを対象にした研修の実施）
 - モデル校による研究の継続
 - 校務処理の電子化の促進（市町村の校務支援システム導入促進等）

⑤自立と社会参加を目指す特別支援教育の充実

- ・特別支援学校のセンター的機能の充実
- ・一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実
- ・発達障害等の理解の促進

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度の取組内容】

- 医療的ケアを実施する全ての教員等が基本的な内容を理解するため、医療的ケア教員研修会を実施した。また、ヒヤリハット事例集を作成し、事故の未然防止に努めた。
- 医療的ケアを必要とする児童生徒の健康の維持、増進と安全な学習環境の整備を図ることを目的に医療的ケアを必要とする児童生徒が通学する県立特別支援学校に看護職員を配置し、児童生徒一人一人の健康維持と医療的ケアにおける安全の確保に努めた。
- 発達障害等を含めた特別支援教育に係る理解啓発や専門性の向上を図るため、幼稚園、小中学校、高等学校等のすべての教員に対して、特別支援教育に関する理解促進研修会を実施した。

【課題・今後の対応】

- ◇ 教員の専門性の向上を図るとともに、特別支援学校が役割分担し、専門性を高め、相互に連携することで特別支援学校のセンター的機能の強化を図ることが必要
 - 医師，言語聴覚士，作業療法士，大学教授等の外部専門家を活用した研修や実践研究の実施
- ◇ 地域のリーダーとして活躍できる，幼稚園・小中学校・高等学校等における特別支援教育コーディネーターの育成と，これらのコーディネーターの相談等に対応できる特別支援学校のコーディネーターの専門性の向上
 - 資質向上を図るため，特別支援教育コーディネーター専門性向上研修会を継続して実施
- ◇ 発達障害等を含めた特別支援教育に係る理解促進のため，小中学校，高等学校の教員に対し，LD，ADHD，高機能自閉症等がある児童生徒の二次的障害の予防と対応に係る研修が必要
 - 特別支援教育に関する理解をさらに深めるため，二次的障害に関する研修会を実施

【数値目標の進捗状況】

内容	基準値	目標値 平成27年度	平成24年度 実績	単位
発達障害の理解促進を図るための研修会を受けた後の，学習指導の改善状況（学習指導の改善に取り組んだ割合）	新規	80	92.8	%

(3) 主な事業の評価

事業名 担当課	目的、内容	数値目標 (目標年度)	課題、今後の方向性			
		期待値 (H24)	評価結果	1~4 【 】		
		成果 (H24)			方針	
学力向上推進プロジェクト事業 義務教育課 2,623 2,623	学力調査等の結果を分析・活用し、学校改善支援プランの推進を通して各学校の学習指導の改善を行い、本県児童生徒の学力向上を図る。	四則計算の平均正答率 (小6) 85%(H27) (中3) 80%(H27) 漢字の読み・書き平均正答率 (小6) 85%(H27) (中3) 80%(H27)	教員の指導力向上を図るため、実践協力校を活用した授業研修を実践し、地域全体の授業力の向上を図る。			
		四則計算の平均正答率 (小6) 81.8% (中3) 79.4% 漢字の読み・書き平均正答率 (小6) 84.4% (中3) 74.4%				
		四則計算の平均正答率 (小6) 89.4% (中3) 87.2% 漢字の読み・書き平均正答率 (小6) 86.0% (中3) 82.7%			評価結果	4
			方針	【現行どおり】		
少人数教育充実プラン推進事業 義務教育課 687,880 400,475	生活習慣や基礎学力の定着・向上、「中1ギャップ」への対応等のため、小学校1~4学年及び中学校1学年で学級編制の弾力化等を実施する。	・本事業は、学校教育全体に影響を与えるものであり、定型的な数値目標は設定できない。 ・県校長協会の調査では「教育上成果が上がった」と回答した校長は97.7%にのぼり、事業の効果はあるものと評価する。	児童生徒数に応じ、該当校に対し、適切な配置を行っていく。			
					評価結果	4
					方針	【現行どおり】
小学校理科教育推進事業 義務教育課 37,318 0	小学校高学年での教科担任制の実施や、大学との連携による教員研修の実施等により、理科の指導力向上や児童の科学への興味・関心高揚を図る。	理科好きの児童の割合 (H24) 4学年 93.9%以上 5学年 89.0%以上 6学年 87.7%以上	本事業は終了となるが、平成25年度は、いばらき理科教育推進事業において、教科担任制を実施する小学校の拡充や理科ボランティアの派遣、科学自由研究の指導等により、児童の科学への興味・関心を一層高めていく。			
		4学年 93.9%以上 5学年 89.0%以上 6学年 87.7%以上				
		4学年 94.3% 5学年 90.9% 6学年 88.2%			評価結果	4
			方針	【完了】		

事業名 担当課	目的、内容	数値目標（目標年度）	課題、今後の方向性	
		期待値（H24）	評価結果	1～4
事業費(千円) (歳出、一財)		成果（H24）	方針	【 】
社会人による学習支援事業 義務教育課 6,256 6,256	各種分野において優れた知識・技術を有する社会人を特別非常勤講師として採用し、教科や領域の一部またはクラブ活動等の指導を充実させる。	・本事業については、児童生徒の「生きる力」を育成し、一人一人の個性を生かす多様な教育活動を展開することを目標としているので、定型的な数値目標の設定はできない。	より多くの小学校で社会人を活用できるよう効果的な派遣方法を検討した上で、社会人の派遣を行う。	
			評価結果	3
			方針	【縮小】
英語コミュニケーション能力育成事業 義務教育課 813 813	英語インタラクティブフォーラムの開催により、英語コミュニケーション能力を高め、国際県・茨城を担う生徒を育成する。	参加校 310校（H24） 310校 273校（88%） 中学校 231校 高等学校 42校	高校においては、内容の見直しを図る。	
			評価結果	3
			方針	【拡充】
みんなにすすめたい一冊の本推進事業 義務教育課 861 861	読書活動の推進を通して、国語力の向上と心の教育の充実、多読者への表彰による読書奨励を図る。	1年間に50冊以上の本を読んだ児童(4～6学年)の割合 60.0%(H27) 59.1% 65.0%	目標数値は上回っているが、引き続き、読書の質と量の両面による指導を継続していく。	
			評価結果	4
			方針	【現行どおり】
いばらき版サイエンスハイスクール事業 高校教育課 7,208 0	高校生の医学に対する興味・関心を高め、医学部進学者の増加や理数系高校生の総合的な学力向上を図るため、いばらき版サイエンスハイスクールの指定や学校に対する医学部進学支援等を実施する。	平成23～27年の医学部入学者数の合計 (公立と私立の合計) 800人 160人 133人(50人) (平成24年度、平成25年3月) 【参考】 平成20年3月120人(43人) 平成21年3月142人(47人) 平成22年3月137人(46人) 平成23年3月169人(57人) 平成24年3月144人(52人) ※（ ）内は公立からの進学者数	県立高校において、事業実施前と比較すると徐々にではあるが、医学部進学者数が微増している。今後は、理系希望者の増加を医学部進学者の増加につなげるために、医師になる強い意志を持たせるようなモチベーションを高める取組を継続的に行うことが重要である。	
			評価結果	3
			方針	【現行どおり】

事業名 担当課 事業費(千円) (歳出、一財)	目的、内容	数値目標(目標年度)	課題、今後の方向性	
		期待値(H24)	評価結果	1~4 【 】
		成果(H24)		
未来の科学者育成プロジェクト事業 ----- 高校教育課 2,873 2,873	最先端科学技術の現場にふれさせる活動等を通して、将来科学者・研究者になろうとする人材を育成する。	科学オリンピックエントリー数の増加 ----- 400人(毎年度)	高等学校教育研究会の理化部、生物部、地学部、数学部及び情報部との連携を継続することで、科学オリンピックのエントリー数を維持する。また、科学オリンピック勉強会の講師を県内の先生が務めるようになるなど教員の資質向上を目指すことで内容面の深化を図る。	【 】
		----- 400人		
		----- 457人		
中学校英語弁論大会 ----- 義務教育課 264 264	高円宮杯英語弁論大会茨城県大会の開催により、生徒が自分の考えを英語で発表する場を提供することにより、発信力の向上を図る。	参加人数 70人(H24) ----- 70人	市町村教育委員会に積極的な周知を行い、参加人数の増加を図る。	【 】
		----- 60人(86%)		

国際社会で活躍できる人材育成事業 ----- 義務教育課 高校教育課 21,216 13,726	新学習指導要領に対応した外国語教育の指導体制の充実・発展を図るため、中学校への発音カソフトや、高校の授業へのディベート導入等を行う。	(義)「県学力診断のためのテスト」の英語・リスニングに関する問題の平均正答率 80%以上(H27) (高)ディベート県大会参加校 16校(H25) ----- (義)80%以上 (高)16校	「発音カソフト」を導入し、効果的な活用の促進を図る。また、ディベート活動の一層の普及を図り、英語の授業での生徒主体の言語活動を充実させる。	【 】
		----- (義)72% (高)15校		

外国語指導助手招致事業費 ----- 高校教育課 148,063 147,391	JETプログラムによりALTを招聘し、ネイティブスピーカーを活用した授業展開の一層の充実を図る。	ALTの活用で生徒の外国への関心が高まったと答えた学校の割合 80%(毎年度) ----- 80%	「英語活動お助けキャラバン」による長期休業中の学校への派遣など、ALTの一層の活用を図る。	【 】
		----- 69%		

事業名 担当課 事業費(千円) (歳出, 一財)	目的, 内容	数値目標 (目標年度)	課題, 今後の方向性		
		期待値 (H24)	評価結果	1~4 【 】	
		成果 (H24)			方針
いばらきものづくり 教育フェア開催 高校教育課 5,059 5,059	児童生徒が, 日頃の学習の成果の発表をとおして, 希望をもって自己の未来を築いていけるようにするため, フェアを開催する。	来場者数 10,000人(毎年度)	児童生徒の自己のキャリア形成を支援するため, 今後も, 多くの県民が来場する場を提供する必要がある。	評価結果 4	方針 【現行どおり】
		10,000人 61,959人 (イオン土浦) 【参考】 H23: 59,400人 (イオン土浦) H21: 11,531人 (つくばカピオ) H20: 10,215人 (つくばカピオ) ※H23より, 大型商業施設で実施している。			
学びの広場サポート プラン事業 義務教育課 34,419 34,419	小学校4・5年生を対象として, 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着のため, 算数学習教材を用いて「学びの広場サポーター」を派遣し, 一人ひとりに応じたきめ細かな支援を行う。	計算力テスト正答率が8割以上の児童 95% (H27)	学力に課題が見られる児童に対し, 基礎学力の定着を図るとともに, 達成感や成就感が得られるよう個別に学習を支援する。	評価結果 3	方針 【現行どおり】
		91.5% 計算力テスト正答率8割以上の児童の割合 4年生 90.8% 5年生 83.7%			
いばらき学力向上推進事業 高校教育課 50,175 6,992	社会人としての自立を支える確かな学力の育成を図るため, 指定校20校に, 非常勤講師や学習支援員等を派遣し, 個に応じた指導法や教育課程の工夫・改善を図る。また基礎学力テストを実施する。	(高) 国語・数学・英語の基礎学力テストの3教科平均正答率アップ(春・秋比較)(毎年度)	基礎学力の確実な定着を図るとともに, 個に応じた指導法等の工夫・改善に取り組んでいく。	評価結果 3	方針 【現行どおり】
		正答率4ポイントアップ (高) 3教科平均 3.6ポイント向上			

第3章 豊かな心と健やかな体の育成

(1) 目指す方向

豊かな心を育むため、道徳教育や体験活動の充実を図るとともに、健やかな体の育成のため、学校体育やスポーツの機会を充実させる。

また、自己の生き方を深く考える力を育てるため、キャリア教育などの勤労観、職業観を育てる教育の充実や、郷土の伝統や文化に対する愛着を高める教育を推進する。

(2) 取組・課題・今後の対応等

①豊かな心を育む教育の充実

- ・ 県全体をあげて取り組むマナーアップ運動の推進
- ・ 道徳教育の充実
- ・ 子どもの読書活動の推進
- ・ 郷土の伝統と文化への愛着を高める教育の推進
- ・ 体験活動・ボランティア活動の推進

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度の取組内容】

- 家庭や地域と連携してマナーアップ運動を実施した。また、11月には主な駅等において幼児・児童・生徒による合同キャンペーンを開催した。
 - ・ 公立学校はいずれの校種も100%実施
 - ・ 内容は、家庭、地域との連携による地域清掃、あいさつ運動、空き缶回収等
- 平成19年度から、全県立高等学校の第1学年で「道徳」の授業を実施し、小学校、中学校、高等学校を通して豊かな心を育成している。また、全ての高等学校が「道徳」の授業を公開し、学校・家庭・地域社会が連携した道徳教育の推進を図った。
- 学校が家庭や地域社会との連携による道徳教育を推進するため、「道徳」の授業を公開した。
- 各小学校のHP上に、総合的な学習の時間や各教科等の学習において、体験活動や地域の方々との関わり、調べ学習などをもとに、児童が調べてまとめた「地域自慢」紹介のコンテンツを開設した。
- 新たに「中学生道徳教育用郷土資料」を作成し、さらなる郷土愛の醸成に努めた。また、高等学校では「道徳教育に関するホームルーム活動資料」を作成した。
- 就職希望者がいる全ての高校でインターンシップを実施するなど、キャリア教育の一環として体験活動に取り組んだ。 実施校数 82校 実施生徒数 5,212人

【課題・今後の対応】

- ◇ 規範意識の育成と公共マナーの向上
 - いばらき教育月間に合わせ、11月に学校・家庭・地域が合同でさわやかマナーアップキャンペーンを継続
- ◇ 新たに作成した教材や指導資料集の活用による生徒の心に響く授業の実践
 - 指導主事等研究協議会等における中学生向け新教材の活用推進の働きかけ
 - 「道徳教育に関するホームルーム活動資料」を活用した高等学校第2年学年以降における道徳教育の充実
- ◇ 学校・家庭・地域が連携した心の教育の推進
 - 学校だより等による道徳的活動の情報発信
 - 地域の人材を活かした学習活動の充実
- ◇ 郷土に愛着や誇りをもつ児童生徒の育成
 - 楽しみながら本県の伝統や文化を学び、関心を深め、郷土への愛着心や誇りを育むとともに、地域とのつながりを強化する郷土検定事業の実施
- ◇ 体験活動の充実
 - ・ 計画的な自然や文化との触れ合い
 - ・ 異年齢、異世代、地域の方々との幅広い交流
 - ・ 自然体験、勤労体験、奉仕活動 等
 - 地域社会の連携による交流の推進
 - 勤労体験、ボランティア体験などの充実
- ◇ 高まりを見せている高校生のボランティア活動の定着
 - 活動事例の継続的な情報発信

【数値目標の進捗状況】

内容	基準値	目標値 平成27年度	平成24年度 実績	単位
マナーアップキャンペーンへの参加学校割合	(H21) 76.0	100	95.1	%
高等学校の生徒の道徳に対する肯定度	(H22) 86.0	100	88.8	%
「地域自慢」紹介ページの掲載とその活用	新規	100 (年7,000件)	87.6	%

②健やかな体の育成

- ・健やかな体を育む学校体育の充実
- ・学校保健と健康教育の充実
- ・食育の推進と学校給食の充実

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度の取組内容】

- 児童生徒の運動意欲を高め、競い合う楽しさや達成感を味わわせ、困難に立ち向かう「たくましい心と体」を育成するため「体力アップ推進プラン」を推進した。小学校への大学院生等のサポーター派遣，専門的知識や技能を有するアドバイザー派遣，担当指導主事派遣などとおして，体育授業の活性化や教員の指導力の向上を図った。
- 児童生徒の性に関する知識の定着を図り，性の逸脱行動等を未然に防止するため，外部講師を招聘しての性に関する講演会を開催し，指導者の資質の向上を図った。
- 栄養教諭免許取得者を小中学校に派遣し，食に関する指導のサポートを実施することで，児童生徒に対する食育の推進と充実を図った。

【課題・今後の対応】

- ◇ 保健体育の授業における保健学習の系統的な指導の充実及び特別活動等の時間に行われる保健指導の充実による児童生徒の健康安全の育成
 - 体育主任研修会及び学校保健・安全指導者研修会等の開催による保健学習指導者の資質向上
- ◇ 児童生徒の望ましい食習慣の定着を図る上での学校と地域との連携推進
 - 各家庭での食に関する意識の改善を図るため，学校での取組状況を給食だより等を通じ積極的に家庭に情報提供することにより，家庭・地域との連携を強化
- ◇ 体育授業の改善や，教育活動全体をとおした体力づくりへの取組を推進する上での，外部指導者等のより効果的な活用方法の検討
 - サポーター及びアドバイザーの派遣を充実させ，児童生徒の体力を向上

【数値目標の進捗状況】

内容	基準値	目標値 平成27年度	平成24年度 実績	単位
外部講師による「性に関する講演会等」の実施率(小)	(H21) 15.5	45	28.6	%
外部講師による「性に関する講演会等」の実施率(中)	(H21) 49.6	60	69.5	%
外部講師による「性に関する講演会等」の実施率(高)	(H21) 99.0	100	100	%
週3日以上授業以外で運動・スポーツを実施している児童の割合	(H21) 37.1	40	36.3	%
児童生徒の朝食摂取率(小)	(H21) 89.6	100	89.6	%
児童生徒の朝食摂取率(中)	(H21) 84.1	100	86.5	%
児童生徒の朝食摂取率(高)	(H21) 69.8	100	74.0	%

③勤労観、職業観を育てる教育の充実

- ・小中高等学校におけるキャリア教育の充実
- ・職業教育の充実

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度取組内容】

- 研修会等をとおして、各学校におけるキャリア教育の全体計画やそれを具現化した指導計画の見直し・改善を指導・助言し、小学校段階からの組織的・系統的なキャリア教育を推進した。
- 職場体験活動の意義や内容・日々の活動事例を掲載したリーフレットを作成し、保護者や受入れ事業所への理解・啓発を図った。
- 中学生の職場体験活動、高校生のインターンシップやデュアルシステムなどとおし、生徒が在学中に自らの専攻や進路などに関連した職場で、実際に用いられている知識や技能・技術に触れさせた。
 - ＜中学校＞ 中学生社会体験事業 全校で実施
 - ＜高等学校＞ インターンシップ 82校 5,212人
 - ＜特別支援学校＞ 中学部を設置する特別支援学校21校中、15校で職場体験活動を実施 206人
高等部を設置する特別支援学校18校で、年3回、2週間程度の実習を実施 1,503人
- 児童生徒の自己のキャリア形成を支援するとともに、ものづくり教育、職業教育の一層の充実を図るため、いばらきものづくり教育フェアを開催した。

【課題・今後の対応】

- ◇ (小学校) 児童の発達段階に応じたキャリア教育への取組
 - 児童の発達段階に応じたキャリア教育の推進に向けた研修会等の充実
- ◇ (中学校) 学校教育活動全体を通じたキャリア教育の充実
 - キャリア教育の視点を踏まえた授業づくりに関する研修の実施による、学校教育活動全体を通じたキャリア教育の充実
- ◇ (高等学校) 学校の教育活動全体を通じて、計画的・組織的に取り組んでいく必要がある。
 - 各学校における全体計画や指導計画の見直しや改善の推進
- ◇ (特別支援学校)
 - 生徒の多様な特性や、本人・保護者のニーズに応じた就労支援の充実
 - ライオンズクラブ等、地域資源を生かし、デュアルシステム型現場実習の実施など、生徒の多様な特性に応じた就労支援の充実
 - 就労支援員が開拓した事業所について、教育情報ネットワークを介し、全校でのデータの共有化及び活用

④命を守り、共生の心を育てる教育の充実

・災害等に対応できる力を育む取組の推進

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度取組内容】

- 実践的防災教育推進支援事業のモデル校10校に、緊急地震速報受信システムを整備し、システムを活用した避難訓練を実施することにより、児童生徒が主体的に行動するなど防災に対する意識が向上した。
- 学校、地域・家庭、行政が連携し、各学校における地域と連携した避難訓練等の実施や防災教育モデル事業の実施等による取組を推進することで、学校の防災力を強化した。

【課題・今後の対応】

- ◇ 学校の防災力をより強化するため、地域の防災関係機関との連携体制の構築及び強化
 - 全市町村に、教育委員会、市町村防災関係課、学校の代表者等をメンバーとする学校防災推進委員会の設置を依頼
 - 全学校において、地域ぐるみの避難訓練や引き渡し訓練など、地域と連携した取組を実施
- ◇ 東日本大震災の教訓を踏まえた防災に関する指導方法等の開発・普及を継続して実施
 - 緊急地震速報システムを活用した避難訓練を実施
 - 災害ボランティアに関する学習を通して、安全な社会づくりに貢献する意識の向上

(3) 主な事業の評価

事業名	担当課	目的、内容	数値目標 (目標年度)	課題 今後の方向性	
			期待値 (H24)	評価結果	1~4
事業費(千円) (歳出、一財)			成果 (H24)	方針	【 】
いばらきの魅力再発見事業		郷土の地域自慢に関する子どもたちの作文及び学校ホームページを募集し、優秀作品の表彰式及び発表会を実施するとともに「いばらきの魅力」として情報発信する。	作文の応募件数 3,000件以上 (毎年度) 応募件数3,000件 応募件数: 2,715件	事業の趣旨, 子どもたちの作品を広く県民に周知するため, 県広報紙「ひばり」, 「教育いばらき」, 茨城新聞や県ホームページを活用し, より有効かつ効果的な広報を行う。	
生涯学習課				評価結果	3
2,000	2,000			方針	【現行どおり】
いばらき版高等学校「道徳」教育推進事業		生徒一人一人が, 未来に向けて人生や社会を切り拓いていこうとする道徳的実践力を高めるため, 学校の指導体制・教員研修の充実と, 「道徳」の授業の円滑な実施を図る。	「道徳」の授業に関する生徒アンケートで「自分を見つめ, 考えることができた」という肯定的な回答 80% (H27) 72.0% 71.4%	「ホームルーム活動指導資料集」を作成し, ホームルーム活動における道徳教育を一層推進する。	
高校教育課				評価結果	3
257	257			方針	【現行どおり】
中学生社会体験事業		中学校2年生の職場体験等を実施し, 主体的, 創造的に生きる資質や能力を育成する。	職場体験等の実施平均日数 3日以上 (H27) 2.775日 2.8日	ライオンズクラブとの連携による受入事業所の拡充や, 教員の指導資料の作成により, 3日間以上の実施を推進する。	
義務教育課				評価結果	4
464	464			方針	【現行どおり】
高等学校交通安全対策事業		高校生の事故防止のため, 学校・地域・関係団体等が連携し, 交通マナーアップ学校委員会・交通マナーアップ地域協議会の設置や, 交通安全教育指導者研修会を実施。	高校生の関係する交通事故発生件数 700件以下 (H27) 830件 771件	引き続き, 各学校に交通事故防止意識の啓発を促す。また, 関係団体と連携して指導者対象各種研修会・講習会を実施し, 各校交通安全指導担当者の資質向上を図る。	
保健体育課				評価結果	3
367	367			方針	【現行どおり】

事業名	目的、内容	数値目標（目標年度）	課題 今後の方向性	
担当課		期待値（H24）	評価結果	1～4
事業費(千円) (歳出、一財)		成果（H24）		
「生きる力」をはぐくむ健康教育推進事業	望ましい生活習慣の育成と、思考力、判断力を高め、児童生徒の「生きる力」を育成するため、教職員に対して指導力の向上を目的とした研修会等を実施する。	外部講師を招聘した「性に関する講演会等」の開催率(H27) 小学校 45% 中学校 75% 高等学校 100%	昨年度に引き続き、各学校への開催依頼文書に、保健予防課・県医師会が作成した「エイズ・STD予防啓発指導員」名簿を添付するなどして、外部講師による講演会開催率の向上に努めるとともに、指導者の資質の向上を図り、児童生徒の「生きる力」を育成する。	
保健体育課 977	977	小学校 28.6% 中学校 64.2% 高等学校 100 %	評価結果	4
		小学校 28.6% 中学校 69.5% 高等学校 100%	方針	【現行どおり】
心と体を育む食育推進事業	指導教材（教具）の作成、栄養教諭派遣事業、いばらき食育推進大会の開催等により、食育の推進を図る。	朝食摂取率 100% (H27) 小学生 94.0% 中学生 91.6% 高校生 84.0%	子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けられるよう、家庭や地域と連携しながら、食育の一層の推進を図る。	
保健体育課 898	898	小学生 89.6% 中学生 86.5% 高校生 74.0%	評価結果	1
			方針	【拡充】
児童生徒の体力アップ推進プロジェクト事業	各校における体力アップ推進プランを策定し、小学校に体育授業サポーター及び体育学習アドバイザーを派遣する。	総合評価A+B(体力上位者)の割合 55.0% (H27)	児童生徒の体力の向上を図る必要がある(特に、小学校男子の投能力)ことから、各学校において、体育授業の改善や、教育活動全体を通じた体力づくりへの取組を推進する。	
保健体育課 976	976	52.0%	評価結果	4
		53.9%	方針	【現行どおり】
スクールカウンセラー配置事業	児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見及び早期解決を図るため、児童生徒の臨床心理に関して高度な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置する。	・当事業は、学校の教育相談体制の充実を図り、個々の児童生徒の心の問題への早期対応に資するものであり、数値化できない。 ・平成24年度は、国の委託事業と併せ、全公立小中・高校にスクールカウンセラーを派遣できたことなどから、評価結果は3とした。	学校における教育相談が充実するよう、スクールカウンセラーを活用した研修等の充実を図る。	
義務教育課 高校教育課 219,314	109,621		評価結果	3
			方針	【拡充】

事業名 担当課 事業費(千円) (歳出、一財)	目的、内容	数値目標(目標年度)	課題 今後の方向性	
		期待値(H24)	評価結果	1~4
		成果(H24)		
生徒指導実践サポート事業	学校での生徒指導体制づくりを推進し、保護者・関係機関との連携など実効ある生徒指導の支援を行う。	マナーアップキャンペーン実施校割合 (小・中・高・中等・特支) 100%(H27) 88%	各学校での生徒指導体制の整備や生徒に対するマナーアップに向けた取組、保護者・関係機関との連携が推進されるよう、今後も積極的に支援する。	
高校教育課 1,655 1,655		95.1%	評価結果 4	方針 【現行どおり】
実践的防災教育推進支援事業	児童生徒等の安全確保を推進するため、「主体的に行動する態度」を育成するため、教育手法や緊急地震速報システム等を活用した避難行動に係る指導方法の開発・普及を行う。	・モデル事業により目標数値の設定は困難。 ・モデル地域において、緊急地震速報を活用した避難訓練などを通して、児童生徒の防災意識や地域に貢献する意識を醸成できたことから、評価結果を3とした。	小学校に比べ、特別支援学校では地域性が弱い面が浮き彫りとなり、今後はさらに地域を巻き込んだ取組を推進する必要がある。	
保健体育課 7,500 0			評価結果 3	方針 【現行どおり】
地域との連携による学校の防災力強化推進事業	地域と学校が連携した防災教育モデル事業、市町村教育委員会による防災研修、各学校における地域と連携した避難訓練等を行い、学校の防災力を強化する。	・モデル事業であり目標数値の設定は困難。 ・各市町村における防災研修会の実施率は66%、避難訓練の実施率も73%にとどまったことから、評価結果を2とした。	効果的な広報や学校と地域の連携のあり方について検討し、地域住民の参加を促す必要がある。	
保健体育課 53,248 0			評価結果 2	方針 【現行どおり】
元気いばらきっ育成事業	県立青少年教育施設及び県生涯学習センターの持つ特性を生かしながら、各種体験活動を提供し、子どもたちの心豊かな人間性や自立心・創造性を育む。	参加者数 38,500人(H27) 38,500人	学校支援の観点から、「歴史体験探索」、「キャリア教育体験活動」、「防災教育体験活動」、「宿泊体験活動」を新たに必須項目とするなど、より魅力的なプログラムを検討していく。	
生涯学習課 6,109 6,109		20,418人	評価結果 2	方針 【見直し】

第4章 生涯にわたって学べる環境づくり

(1) 目指す方向

いつでもどこでも学べる機会を充実させるとともに、学んだことを社会づくりに活かせる生涯学習社会の実現のため、生涯にわたって質の高い学びを進める環境づくりや、心に潤いと感動をもたらす文化芸術活動の推進、活力あるスポーツの振興に努める。

(2) 取組・課題・今後の対応等

①生涯にわたって質の高い学びを進める環境づくり

- ・生涯学習の普及・啓発の推進
- ・多様な学習機会や場の提供
- ・学習成果の活用と体制の整備
- ・県民の読書活動への支援

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度の取組内容】

- 県民大学講座においては、生涯各期の課題に応じた学習機会の提供をとおして、学習者の主体的な課題解決を支援するとともに、人材の育成を図ることができた。
- 生涯学習調査研究事業においては、地域の課題に即したモデルプログラムを各生涯学習センターで開発し、他団体と連携して実践した。
- 公立図書館ネットワークシステムの利用促進を図ったところ、システム利用公立図書館が増加し、利用者による蔵書情報の検索や図書館の相互貸借の利便性が向上した。

【課題・今後の対応】

- ◇ 効果的な情報提供や市町村や民間教育機関等との連携強化の促進
 - 弘道館アカデミー事業(県民大学講座を含む)については、県民の多様な学習活動を奨励・支援するため、事業内容や学習機会、情報提供の在り方の検討
- ◇ 生涯学習調査研究活動において「『無縁社会に立ち向かう』新たな社会貢献の仕組みづくり」について、人材育成プログラムの開発
 - モデルプログラムの普及及びモデル団体等の支援を図ることによって、コミュニティ再生事業として実施
- ◇ 公立図書館ネットワークシステムの利用促進の充実
 - 公立図書館ネットワークシステムの広報の充実

【数値目標の進捗状況】

内容	基準値	目標値 平成27年度	平成24年度 実績	単位
生涯学習ボランティア登録数(県民千人当たり)	(H21) 5.4	6.0	5.9	人
茨城県弘道館アカデミー講座受講者数(県民千人当たり)	(H21) 29.8	31.0	22.2	人
「新しい公共」社会貢献活動(ボランティア活動)の参加率	(H22) 35.4	60.0	32.9	%
学校図書館等への団体貸出冊数	(H21) 36,008	42,000	41,098	冊
図書貸出冊数(県民一人当たり)	(H20) 5.0	6.0	5.7	冊

②心に潤いと感動をもたらす文化芸術活動の推進

- ・全国高等学校総合文化祭茨城大会の開催
- ・美術館・博物館活動の充実と活用

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度の取組内容】

○ 平成26年度に本県で開催される、全国高等学校総合文化祭茨城大会の開催に向け、準備や運営の主体となる県実行委員会や生徒実行委員会を設立し、関係機関等との連携を図りながら、準備を推進するとともに、高校生のみならず小中学生に対しても芸術文化活動への機運を高められるよう、開催機運の醸成に努めた。

- ・大会マスコットキャラクター愛称、イメージソング公募等の広報PR活動

○ 県立美術館・博物館において、各施設の特色を生かした展示活動及び普及活動等を実施し、広く県民が文化・芸術に親しむ機会を提供した。

<近代美術館>

- ・「生誕110周年記念 ウォルト・ディズニー展」など、3館合わせて年11回の企画展を開催
- ・常設展等と合わせて277,658人が入館

<歴史館>

- ・特別展Ⅰ「霞ヶ浦と太平洋のめぐみ—塩づくり—」、特別展Ⅱ「筑波山—神と仏の御座す山—」や年5回のテーマ展、企画展「新たな国民のたから—文化庁購入文化財展—」などを開催
- ・常設展と合わせて81,767人が入館

<ミュージアムパーク自然博物館>

- ・「不思議いっぱい！貝たちの世界—蝸牛から烏賊・蛸まで—」など年3回の企画展を開催
- ・常設展と合わせて389,636人が入館

<陶芸美術館>

- ・「国際交流基金コレクション 日本陶芸 世界を巡る」など年4回の企画展を開催
- ・常設展と合わせて66,044人が入館

【課題・今後の対応】

- ◇ 全国高等学校総合文化祭茨城大会の開催準備
 - 本大会リハーサルを兼ねたプレ総合開会式・プレパレードの開催
 - 国際交流コンサートなど、高校生の国際交流事業の実施
 - 各種イベントでのPRやノベルティグッズの製作
- ◇ 魅力あるテーマを扱った企画展の開催
 - 文化庁助成金の活用や県内外の美術館・博物館との共同連携等による、展覧会や関連事業の内容充実
- ◇ 普及広報活動の拡充・強化
 - 学校や地域、企業・団体、マスコミ等との連携を一層強化し、広報機会を拡大

【数値目標の進捗状況】

内容	基準値	目標値 平成27年度	平成24年度 実績	単位
県立美術館・博物館の利用者数	(H21) 1,047	1,200	1,046	千人

③活力あるスポーツの振興

- ・選手強化体制の充実
- ・生涯スポーツを推進する組織の育成・充実
- ・国民体育大会開催に向けた準備

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度取組内容】

- 平成31年第74回国民大会開催時に主力となるジュニア層を中心に、県体育協会、筑波大学及び競技団体等と連携し、計画的に選手の発掘・育成・強化を図った。
 - ・競技力向上対策本部の設置
 - ・競技力向上対策基本計画の策定
 - ・国体に向けた強化合宿の実施
 - ・筑波大学との連携による選手育成強化プログラムの実施
 - ・オリンピック出場選手等を活用した体験教室や出前講座の実施
 - ・指導者の養成と研修会の実施

第67回国民体育大会（ぎふ清流国体） 天皇杯33位（19競技で入賞）
 全国高校総体（北信越ブロック開催） 団体4競技、個人7競技15種目で入賞
 全国中学校体育大会（関東ブロック開催） 団体5競技、個人6競技11種目で入賞
- 県民に各種のスポーツ・レクリエーション事業を提供するとともに、各市町村における総合型地域スポーツクラブの創設育成を促進し、生涯を通して誰もがいつでもどこでもいつまでもスポーツに親しむことができる、生きがいのある生活と活力ある生涯スポーツ社会の形成を図った。
- 平成31年第74回国民体育大会に向け、競技力向上対策本部を設置し、国体の開催に向けた競技力向上の推進を図った。

【課題・今後の対応】

- ◇ 平成31年に本県で開催される国体で天皇杯を獲得するためには、男女とも大幅な競技得点の上乗せが必要であり、計画的な競技力向上が課題となる。
 - 国体で活躍が期待できる選手の発掘・育成・強化
 - 各競技種目の指導体制の充実・強化
 - 競技力向上のための環境整備・充実

【数値目標の進捗状況】

内容	基準値	目標値 平成27年度	平成24度 実績	単位
国民体育大会天皇杯順位	(H22) 23	10位台	33	位
成人の週1回以上のスポーツ実施率	(H20) 33.1	53.0	43.4	%
公営体育施設利用回数(県民一人当たり)	(H21) 5.0	6.0	3.5	回
総合型地域スポーツクラブを創設した市町村の割合	(H21) 38.6	100	75.0	%

(3) 主な事業の評価

事業名 担当課 事業費(千円) (歳出, 一財)	目的, 内容	数値目標 (目標年度)	課題, 今後の方向性	
		期待値 (H24)	評価結果	1~4 【 】
		成果 (H24)		
茨城県弘道館アカデミー推進事業 生涯学習課 487 487	県と市町村, 大学等, 民間教育事業者等との連携による学習機会の情報提供や, 学習成果の評価と活用推進により, 県民の多様な学習活動を奨励・支援する。	県民千人当たりの受講者数 31.0人 (H27) 30.4人 22.2人	県民の多様な学習活動を奨励・支援するため, 事業内容や学習機会, 情報提供の在り方を検討する。	評価結果 1 方針 【見直し】
小中学校芸術祭・高等学校総合文化祭の開催 文化課 8,256 8,256	児童生徒の創造性を高め豊かな情操を培うため, 小中学校芸術祭・高等学校総合文化祭を開催する。	児童生徒の満足度 100% (毎年度) 100% 91.0%	児童生徒が文化芸術活動に積極的に取り組む上で大きな励みとなる, 県域の発表や交流の機会を, 継続して提供する必要がある。	評価結果 3 方針 【現行どおり】
第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会推進事業 文化課 22,284 16,116	高等学校教育の一環として, 生徒に芸術文化活動の場を提供することにより, 芸術文化活動への参加意欲を喚起し, 創造的な人間育成を図るとともに, 芸術文化活動を通じて全国的, 国際的規模での生徒相互の交流・親睦を図る。	H24 広報PR活動として実施する公募事業において, 応募総数が先催3県平均を超えること。 ・大会マスコットキャラクター愛称 1,280点 (先催3県平均) ・大会イメージソング(歌詞) 60点 (先催3県平均) ・大会イメージソング(曲) 45点 (先催3県平均) ・大会マスコットキャラクター愛称 1,800点 (H24) ・大会イメージソング(歌詞) 518点 (H24) ・大会イメージソング(曲) 470点 (H24)	H24 広報PR活動の数値目標は上回る事ができた。今後は, 高校生をはじめ県民全体への周知を推し進め, 全県的な開催機運の醸成を図る。	評価結果 4 方針 【完了】
アートフルステージ巡回公演 文化課 1,668 1,668	芸術鑑賞機会が少ない特別支援学校の児童生徒のため, 舞台芸術公演事業を実施する。	児童生徒の満足度 100% (毎年度) 100% 93.5%	学校側(児童生徒)の要望(公演団体・種目・公演時間等)をできるだけ取り入れながら, 障害の特性などを考慮して実施する。	評価結果 3 方針 【現行どおり】

事業名	目的、内容	数値目標（目標年度）	課題、今後の方向性	
		期待値（H24）	評価結果	1～4
担当課		成果（H24）	評価結果	1～4
事業費(千円) (歳出、一財)			方針	【 】
県立美術館・博物館 展示事業	県立美術館においては国内外の優れた美術作品，県立博物館においては自然のしくみや歴史的な展示物など，普段身近に触れることの少ない文化芸術展や興味深い環境等に関するテーマを扱った企画展を開催する。	県立美術館・博物館の利用者数 120万人（毎年度） 120万人 1,045,546人 【内訳】 近代美術館 135,288人 つくば美術館 54,356人 五浦美術館 188,942人 陶芸美術館 86,858人 自然博物館 443,234人 歴史館 136,868人	文化庁の補助金等も活用し魅力的な展覧会の開催に努めるほか，企画展に関連したワークショップの実施，広報強化などにより利用者の増を図る。 また，平成25年度は，「天心・波山記念事業」を実施することから，関係市町村や施設等と連携した関連イベントやPRを行い，更なる誘客に努める。	
文化課			評価結果	3
206,255 92,874			方針	【現行どおり】
体験活動ボランティア活動支援センター事業	ボランティア活動に関する情報の提供・相談及びボランティア活動の促進を図る。	生涯学習ボランティア登録数（県民千人あたり） 6.0人（H27） 5.7人	各施設担当者と連携を密にとるとともに，高校生対象の「ヤングボランティアセミナー」修了者に対し，施設ボランティア等への登録を促す。	
生涯学習課		5.9人	評価結果	4
2,463 2,463			方針	【現行どおり】

第5章 質の高い教育環境整備

(1) 目指す方向

安全・安心な教育環境の実現と教育の機会を保障するため、時代の進展や社会の変化に対応した魅力ある学校づくりを推進する。

また、学習施設の整備の促進に努める。

(2) 取組・課題・今後の対応等

①時代の進展に対応した魅力ある学校づくり

- ・高校教育改革の推進
- ・特別支援学校の教育環境の整備の推進
- ・公立小中学校の適正配置の促進

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度の取組内容】

- 第2次県立高等学校再編整備の前期実施計画（平成23年度～25年度）に基づき、高校教育改革の推進を図った。また、中期実施計画（平成26年度～28年度）を策定した。

併設型中高一貫校設置（1校）、フレックススクール設置（1校）、学科改編（3校）

学校再編（募集停止：2校）

- 県立特別支援学校整備計画に基づき、境特別支援学校を新設した。
- 市町村教育委員会等への訪問等により、適正配置に向けた取組に対する情報提供・助言を行った。

【課題・今後の対応】

- ◇ 高等学校再編整備の円滑な実施
 - 産業構造等の社会の変化や生徒のニーズの多様化に対応した魅力ある学校・学科づくり
 - 中学校卒業生数の推移や地域バランス等を勘案した、学校の適正規模・適正配置を推進
- ◇ 特別支援学校の適正配置
 - 児童生徒数の推移や地域バランス等を勘案し、適正配置を推進
- ◇ 公立小中学校の適正配置
 - 小・中学校の設置者である市町村の実情を踏まえ、引き続き、学校の適正規模・適正配置に向けた取組に対する支援の実施

②安全・安心な教育環境の整備

- ・学校危機管理体制の確立
- ・学校施設整備の推進

○：取組 ◇：課題 →：今後の対応

【平成24年度取組内容】

- 緊急かつ重大な事件・事故が発生した場合等に、学校から保護者等に対して正確な情報を速やかに伝える情報伝達体制（緊急情報メール配信システム）を運用し、学校安全対策の一層の向上を図った。
- 防災教育に対する教職員の意識及び資質の向上を図るため、各学校における危機管理マニュアル等の点検・見直し、学校危機管理体制の整備を推進した。
- 学校施設の耐震補強を行うことにより施設の安全確保を図るとともに、老朽校舎の改築や施設・設備等の整備を行うなどして、快適な教育環境の整備などを推進した。

【課題・今後の対応】

- ◇ 緊急情報メール配信システムの登録数の拡充
→ システム概要及び加入メリット等を学校等へ周知することによる登録の促進
- ◇ 関係機関との連携による、事件・事故の防止
→ 警察など関係機関との連携による、幼児・児童生徒の事件・事故の未然防止及び被害の拡大防止
- ◇ 東日本大震災を踏まえ、一日でも早く耐震化を完了することが重要
→ （市町村立学校）訪問等による市町村への働きかけ、国へ財政支援要望
→ （県立学校）茨城県耐震改修促進計画に基づく耐震補強工事等の実施

【数値目標の進捗状況】

内容	基準値	目標値 平成27年度	平成24年度 実績	単位
県内各種学校における防犯教室等の実施率(小)	(H21) 86.0	90.0	82.9	%
県内各種学校における防犯教室等の実施率(中)	(H21) 69.0	75.0	60.5	%
県内各種学校における防犯教室等の実施率(高)	(H21) 15.0	20.0	16.0	%
県内各種学校における防犯教室等の実施率(特)	(H21) 67.0	70.0	68.2	%
県内公立学校における耐震化率(幼)	(H22) 39.1	90.0	58.7	%
県内公立学校における耐震化率(小・中)	(H22) 55.7	90.0	77.4	%
県内公立学校における耐震化率(高)	(H22) 68.6	100	82.3	%
県内公立学校における耐震化率(特)	(H22) 82.8	100	89.0	%

(3) 主な事業の評価

事業名	担当課	数値目標 (目標年度)	課題, 今後の方向性	
		期待値 (H24)		
事業費(千円) (歳出, 一財)	目的, 内容	成果 (H24)	評価結果	1~4
			方針	【 】
老朽校舎改築事業	学校施設の安全性確保のため, 昭和45年度以前に建築され, 倒壊の危険性が高いとされる6棟(Is値0.2以下)の改築を実施	改築完了: 6棟 (H27)	学校施設の安全性を確保するため, 計画的に改築事業を実施していく。	1~4
		改築完了 : 2棟 改築工事中 : 1棟 基本設計 : 2棟		
財務課		改築完了 : 2棟 改築工事中 : 1棟 基本設計 : 2棟	評価結果	4
1,963,064	22,867		方針	【拡充】
耐震補強事業	耐震診断により補強が必要とされた建物について, 「県耐震改修促進計画」に沿って耐震補強工事を実施する。	耐震化率: 100%(H27)	県立学校施設は, 児童生徒が教育を受ける場であるとともに, 災害時には地域住民の避難施設となることから, 出来るだけ早期に耐震補強を実施し, 施設の安全性に万全を期すよう努めていく。	1~4
		高等学校: 82.3% 特別支援学校: 89.4%		
財務課		高等学校: 82.3% 特別支援学校: 89.0%	評価結果	3
2,151,859	26,254		方針	【拡充】

IV 学識経験者の意見

第1章 「社会全体での教育力の向上」

○施策全体に対する意見

- ・ 「いじめ防止対策推進法」が成立し、県や市町村では「地方いじめ防止基本方針」を、各学校では「学校いじめ防止基本方針」を策定することになる。基本方針を策定することは良いが、いじめ防止対応がマニュアル的になることなく、社会が抱える問題の中に子どもたちの「いじめ」の原因もあるという視点で捉えていく必要がある。
- ・ 平成24年度からスタートした県立図書館と市町村立図書館が連携し、学校図書館ボランティアを立ち上げ、学校図書館の活性化を図る事業は、現在モデル校レベルのみの取組だが非常に大きな成果をあげている。ぜひ先進的な事例を全県に広げ、全小中学校に広めてほしい。
- ・ 学校運営の改善実施について、高等学校における学校関係者評価の実施に基づく改善をさらに推進してほしい。

○個別事業に対する意見

【「いばらき教育の日」推進事業】

- ・ 年々民間団体や企業の参加数が増えているのは啓発活動の成果だと思う。この事業も10年ほど経過するが「社会全体での教育力の向上を目指す」ためにも、さらに学校関係者以外の団体の参加を呼びかけたい。また、地域で支えなければならない家庭もあり、しっかりとしたコミュニティを基盤にした地域の教育力の向上の大切さを啓発してほしい。
- ・ 教育関係者を越えて広く活動を周知することが従前から課題となっていたが、民間団体や企業の取り組み件数に一定の成果がみられる。教育の日、教育月間における活動の紹介等も併せ、今後も引き続き地道な広報活動を継続することが大切である。

【お手伝い・ボランティア奨励事業】

- ・ 子どもたちがお手伝いを始めるきっかけになる事業となっている。7月に各学校に配布され、3月まで使えるようになっているが、夏休み中心の活用にならないように家庭との連携を図るなどの工夫を行い、さらに活用しやすいものにしてほしい。
- ・ 家事をよくする子どもは、社会的関心が強く積極性に富み自立に優れているということである。社会に生きる意欲と力が養成されることを期待する。

【家庭の教育力向上プロジェクト事業】

- ・ 家庭教育ブックの内容は良くできたものである。その中で「早寝・早起き・朝ごはん」の扱いは参考程度になっている。脳科学の観点からいえば、子どもの育ちに重大な影響がある。文科省の資料も併せて活用することを保護者へ促す等、啓発を図ってほしい。

【地域に生きるヤングボランティア推進事業】

- ・ 高校生には、ボランティアに対する潜在的な関心やニーズがあるとみられるので、豊富で魅力的な研修メニューを提供できるようにして、参加者が増えることを期待したい。

第2章 「未来に羽ばたく力を育てる教育の充実」

○施策全体に対する意見

- ・ 今年度の学力・学習状況調査の結果も全国平均を上回った。教員が一人一人の子どもたちに向き合って指導を積み重ねてきた成果であると思う。各小中学校では、学校の実態に応じた教育課題を見だし、課題解決のための校内研修を行っている。しかし、最近では、その研修の時間が十分にとれない状況もある。校長会や教育研究会でも業務の効率化や軽量化に向けて動き始めたところである。教員がきちんとした研修を受けることができる環境を整備していく必要がある。
- ・ 特別支援教育に関する教員研修の成果は大きなものがあると思う。今後も継続して実施し、二次的障害の予防と、自立に向けた就労支援に関する指導を推進してほしいと思う。
- ・ すばらしい先生が多い中、ベテランの中にもコミュニケーション能力を欠く先生が見受けられる。信頼関係が築けず、子どもの学校生活や授業等に影響が出るばかりか、各施策を実施していく上で障害ともなりかねない。教師自身の豊かな心を育むなど、教師の資質向上には特に力を入れてほしい。
- ・ 理系大学進学率には、さらに「のびしろ」があると思う。筑波研究学園都市や東海村等、科学関連の施設を有する本県の特色を生かし、小中学校、高等学校段階それぞれで、理系進学希望者を増加させるための方策を考える必要がある。そのためには、完了する小学校理科教育推進事業の発展的展開や中学校での同種の事業の展開、いばらき版サイエンスハイスクール事業等の強化が望まれる。
- ・ 教師集団の年齢構成のアンバランスの解消は困難であるとみられ、近年の若手教員の割合の増加からすると、新規に設定された3年次研修に効果が期待される。この3年次研修を含め、初任者、2年次、5年次、10年次という全体的な視点から、教師のライフサイクルを視野に入れた研修の一貫性や整合性を確保して、実質的な教師力の向上を担保する必要がある。

○個別事業に対する意見

【学力向上推進プロジェクト事業】

- ・ 昨年度、算数の実践協力校として本校も関わった事業である。全教員が指導主事の協議グループに入り、話し合いに参加したり文部科学省の学力調査官の指導を受けたりと、教員にとって素晴らしい研修の機会となった。
- ・ 学力向上に関わる一連の施策を通して、県内の義務教育段階での学力向上が着実に図られてきている。今年度から国の全国学力・学習状況調査が悉皆調査となった。この方向は当面続くとみられるので、県実施のテストと併せ、平成19年度以降の全国学力・学習状況調査の結果動向について、長期視点からみた結果の分析を行って、成果と課題を検討してはどうか。その結果を指導の改善に活かす方策を見いだしていく必要がある。

【少人数教育充実プラン推進事業】

- ・ 一学級の児童生徒数を減らしたり、複数の教員で一つの学級を指導したりすることは、児童一人一人にきめ細かい指導を行っていく上で重要なことである。来年度から6年生まで枠を広げるとの報道もあり、より個に応じた指導の充実が図れるものと期待している。

【英語コミュニケーション能力育成事業】

- ・ インタラクティブフォーラムは、英語によるコミュニケーション能力を高めるのに有効であると思う。また、茨城県独自に始まったものとも聞いているので、さらに充実して継続してほしい。審査員のALTにより評価基準が異なり曖昧な評価になることもあるので、その部分を改善してさらに良いものにしてほしい。

【みんなにすすめたい一冊の本推進事業】

- ・ 本を読むことに関心を持たせる読書習慣を身に付ける入り口として、この事業は有効であると思う。本校でも年間 50 冊以上を読む児童や 3 年間で 300 冊読む児童も増えてきている。読書環境の整備や一冊の本をじっくりと読む読書の質に視点を当てた取り組みも望まれる。

【学びの広場サポートプラン事業】

- ・ 学びの広場サポートプランは、小学 4 年・5 年生を対象に、基礎的・基本的な知識・技能の習得の場として活用されている。学力格差の解消につながっていけばと考える。現場ではサポーターの確保に苦勞をしているが、学力格差の解消には個の学びに応じた指導を充実する必要がある、各学級に複数サポーターの配置が望まれる。

第3章 「豊かな心と健やかな体の育成」

○施策全体に対する意見

- ・ 道徳の教科化が話題となっている。茨城県は比較的、週 1 時間・年 3 5 時間の道徳の時間は確保し、児童生徒の道徳性を養うために、しっかりと実施されていると思う。学校教育全体を通して道徳や人権教育を行うことで、いじめ問題や体罰問題の防止に取り組んでいくことが大切だと思う。
- ・ 子どもは優秀な観察学習者である。大人は豊かな心をもって普段から接していかなければならない。いくら道徳的に素晴らしいことを言おうとも、子どもに見透かされたら伝わらない。教師の姿、親の姿を子どもたちはいつも見ていることを念頭に入れ、あこがれを伝播させるような存在になることが大切である。
- ・ 勤労観、職業観を育むためには、小学校時期からのキャリア教育の充実を図っていく必要がある。その際、地域と連携した取組を工夫することで、郷土愛も育まれる。
- ・ キャリア教育は今後増々その意義が高まるとみられる一方、小学校からの職業観の育成など、学校現場サイドでの対応が遅れがちであるとも耳にする。教師が増々多忙化する中、どのように対応していくかについて、研修会を充実する等、対応が必要である。
- ・ 美術や音楽等の芸術分野において、文化庁の事業活用なども含めた外部指導者の導入を推進し、教育の充実が図られることを期待したい。

○個別事業に対する意見

【いばらき版高等学校「道徳」教育推進事業】

- ・ この事業も 3 年目になり、高等学校にも「道徳」が定着しつつあるのかと思う。小中学校道徳の焼き直しの道徳ではなく、生徒の発達段階に応じた道徳教材等の開発の推進や教員の研修の機会確保、内容の充実などをさらに進める必要があるように思う。

【中学生社会体験事業】

- ・ 中学生にとって職場体験を通し、多くの社会人と関わったり職業体験をしたりすることは、子どもたちがこれからの生き方を考えていく上で大変貴重な体験である。
- ・ 3 日以上の実施となっているが、地域によっては協力してくれる事業所の確保に苦勞することも多く、地域事業所への広報啓発が必要である。

【「生きる力」をはぐくむ健康教育推進事業】

- ・ 性教育, 食育に関しては, 現場で奮闘されている先生方の様子を見ると, アレルギーへの対応をはじめ, 一昔前とは比べものにならない程によく対応されていると感じている。

【児童生徒の体カアップ推進プロジェクト事業】

- ・ 体育授業サポーターは, 小学校のみの派遣ではなく, 中学・高校への派遣も検討すると良いのではないかと思う。学校の授業の活性化, 大学生や先生方への刺激という意味で利点も多い。

【スクールカウンセラー配置事業】

- ・ 人との関わりが苦手な児童生徒や, ストレスに弱い児童生徒がますます増える傾向にある。専門的な知識や経験をもつスクールカウンセラーが配置され, 児童生徒の心のケアに対応できることは大変有効である。しかし, 中学校で月1回程度, 小学校では学期に1回程度であり, 学校の実態に応じた配置や配置拡大などをお願いしたい。

【地域との連携による学校の防災力強化推進事業】

- ・ 各市町村における防災研修会や訓練等の開催等につき, 実施率の向上等, 今後の改善が望まれる。

第4章 「生涯にわたって学べる環境づくり」

○施策全体に対する意見

- ・ 生涯学習で学んだ成果や現役時代に身につけたプロの技や知恵を活かす仕組みづくりを推進し, 教育の場での活用を図りたい。
- ・ 平成31年本県開催の茨城国民体育大会決定を受け, 競技力向上対策本部が設置され, 同基本計画が策定された。選手強化に関する課題が挙げられているが, 計画の実施がなされるとともに, 県民全体のスポーツ振興実現を, この国民体育大会を通してなされることを期待する。評価指標を公開し, 県民全体のスポーツに対する信頼を得てほしいと思う。

第5章 「質の高い教育環境整備」

○施策全体に対する意見

- ・ 小学校の適正配置については, 財政等の事情ではなく, まずは子どもの育ちを第一に考えたものにしてほしい。
- ・ 子どもの安全は何をおいても確保されなくてはならないものである。学校施設や緊急時はもちろんのこと, 通学路の危険個所の解消にも力添えを願いたい。

茨城県教育委員会

310-8588 水戸市笠原町978番6

電話029-301-5143

E-mail kyoikusomu9@pref.ibaraki.lg.jp

<http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/index.html>